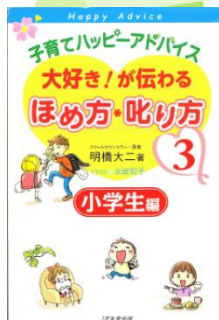


# 栄小サポートだより

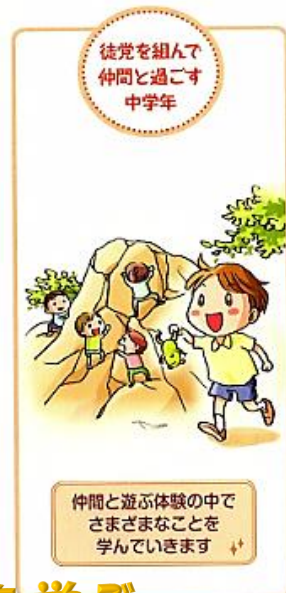
2021.11.18

特別支援教育コーディネーター：増子



## 小学校6年間の成長②

今回は、1・2年(低学年)小学生の心の世界特徴について、左の本「子育てハッピーアドバイス 大好き!が伝わるほめ方・叱り方3 小学生編」という【明橋 大二】先生の本から抜粋し、紹介しました。今回は、3・4年(中学年)についてみていきたいと思います。



## 小学校3, 4年(中学年)

### 仲間をもつ楽しさと、ルールを学ぶ

#### 1. いちばん関心があるのは友達関係

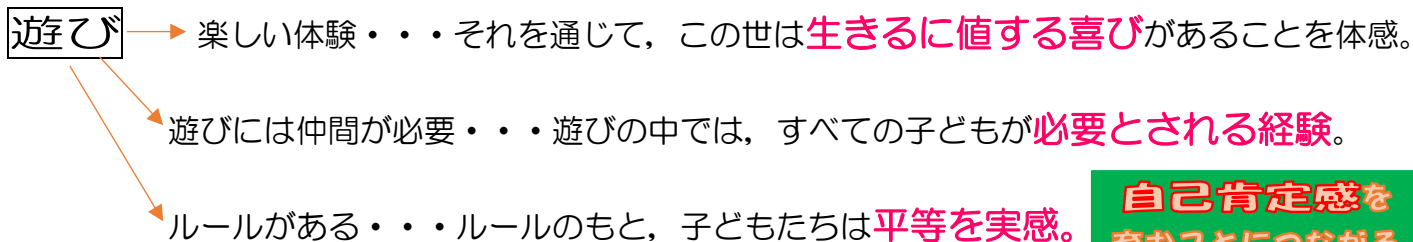
#### 2. 遊びを通して仲間同士であるためのルールを学ぶ

この時期になると、子どもは自己主張とともに、ルールなどもある程度守れるようになり、集団行動が増えてきます。「ギャングエイジ」ともいわれる年代です。この時期の子どもにとって、いちばん関心があるのは友達関係といってもいいでしょう。「ギャング」というのは2つの意味があります。

- ①:「徒党を組む」ということです。大人に干渉されない、子どもたちだけの世界をもち、小集団で行動します。
- ②:「悪さをする」⇒『悪』なのではなく、ついやらかしてしまがち…いたずらしちゃうとか…ということです。いろいろなことに興味をもち、『知りたい』『やってみたい』など考えるより先について行動に移してしまい、立ち入り禁止の場所に入るとか、石を投げ合っていてあやまって窓ガラスを割るとか・・・「やらかし」てしまうことがあります。

仲間をつくって遊ぶ中で子どもは、大人に縛られない自由の心地よさと、仲間をもつ楽しさと、仲間同士であるためのルール(相手の気持ちを考えるなど)・社会のルールを学んでいくと言われています。

この時期の子をもつ保護者の皆様に知っておいていただきたいことは、**仲間との遊びが、子どもの自己肯定感を育てる意味で、とても重要な意味をもっている**ということです。



さらに遊びには、大人が眉をひそめるようなものも含まれます。それによって、必ずしも大人にとって「いい子」でなくても、**存在していいことを学ぶ**のです。そういうことから、大人から見れば、単なる悪さやいたずらでも、子どもの成長にとっては大切な意味があることなのだとされています。

社会のルールや人として大切にしなければならないことは、大人として親としてきちんと伝えつつ、【学んでいる状態】であるという視点をもつことも大切だと思います。

この時期に「仲間をつくる」「グループで遊ぶ」経験をしていくと様々な経験が積めるのです。その経験が、この後の思春期に自己肯定感をもち、「自分」という存在を見つめていく心の作業に向き合うことの助けになります。【友達】に自分を重ね合わせ、不安になりがちな思春期の【自分】を自分で支えていけるからです。ただ、感じ方・付き合い方は人それぞれ。一人でいるのが心地よい子、自分のペースを守って過ごすほうがリラックスできてよい子もいます。大人が焦らず、見守ることも必要です。

## 【中間反抗期】って聞いたことがありますか？

第一次反抗期（1歳半～3歳）と、第二次反抗期（思春期）の間に、中間反抗期のあることは、あまり知られていないと思います。

これは、2年生後半から中学年のころをピークに表れてくる反抗期ですが、この中間反抗期の特徴を一言でいうと、「口答え」です。ああ言えばこう言うで、「お母さんだってやってるくせに！」など、反論や屁理屈が多くなってきます。これは、今まで親に依存していたのが、だんだん自分で考える力がつき、親を批判できるようになることから生じる状態です。それまでは親の言うことをそのまま受け入れていたのですが、次第に親の言うことにも、矛盾があったり、間違いがあったりすることに気づき始めたのです。成長の一つの表れなのです。

文句や口答えが増える  
中間反抗期  
「この一言で、  
注意がすっと  
受け入れられる  
本意に気づき」



## 口答えは、考える力がついた証拠

大人としては、口答えをされると、「屁理屈言わないの!」「そんなこと言うなら、勝手にしなさい!」とつい叱りつけてくなりますよね。

しかしそうすると、子どもはよけいに不満をつのらせて、もっと言うことを聞かなくなりますか？お互いに気持ちよく解決できるためには、頭ごなしに抑えつけるのではなく、ぜひ「確かに考えてみたら、あなたの言うことも一理ある。お母さん（お父さん）もその点は気をつけるから、あなたもちゃんと決まりは守りなさいよ」と穏やかに話すと、子どもも自分の言い分も認められたと理解し、心も幾分すっきりし、大人からの注意もすっと受け入れられるようになるかもしれません。口答えが始まったら、「成長してきたんだな。」とお子さんを肯定的にみてくださいね。

